

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

サステナブルな未来を創造する
企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と
「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する 企業グループを目指して

NTTコミュニケーションズグループは、ますます深刻化する気候変動問題をはじめSDGs/ESGを巡る内外の動向やそれらに伴う事業環境の変化、未来社会を支える先端技術の動向などを踏まえ、2021年5月、従来の「CSR基本方針」を改定し、「サステナビリティ基本方針」を策定しました。

この基本方針は、私たちの「企業理念」「信条」のもと、“Your Value Partner”として、事業ビジョン「Re-connect X」の推進などを通じて、人と世界の無限の可能性を拓きつつ、持続的に「社会に応え」、「サステナブルな未来の実現」を目指すものです。「社会」「環境」「人材」「ガバナンス」の4領域を重点領域としており、各領域ごとに「目指す未来」を掲げるとともに、その実現に向けて、「社会と未来をつなぐDXの推進」や「限界を打破するイノベーションの推進」「脱炭素社会の推進」「循環型社会の推進」「人権の尊重」「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」「バリューチェーン・パートナーシップの充実」「コンプライアンス・リスクマネジメントの徹底」などの12の重点活動項目、関連する主要推進事項や、2030年カーボンニュートラル (Scope1・2) の実現などの目標、各種KPIを定めています。

私たちは一連の重点活動の推進とPDCAサイクルによるサステナビリティマネジメントなどにより、自らの事業活動がもたらすバリューチェーン全体を通じた社会への「正の影響」の一層の強化と「負のリスク・影響」の最小化を図ります。そして、お客さま・パートナーをはじめさまざまなステークホルダーの皆さまと共創し、あらゆる壁を乗り越え、その積み重ねによって社会全体のDX、WX、GX、SXを推進し、「SDGs達成への貢献」、その先の「サステナブルな未来」の創造に取り組んでいきます。

P.019 マテリアリティ特定プロセスは、
レポート内「重点活動項目とKPIの設定」をご覧ください

P.006 サステナビリティ基本方針については、
レポート内「私たちが目指す社会」をご覧ください



サステナビリティ基本方針の重点領域※と「目指す未来」



社会

イノベティブで活力にみち、強靱で安心・安全、そして価値創発で持続的に発展するよりよい未来



環境

カーボンニュートラルで、資源が循環し、生物多様性が保全されて自然と共生する、グリーンな未来



人材

多様性に富み、誰もが尊重され共に高め合い、社会に応えて自分らしく活躍できる未来

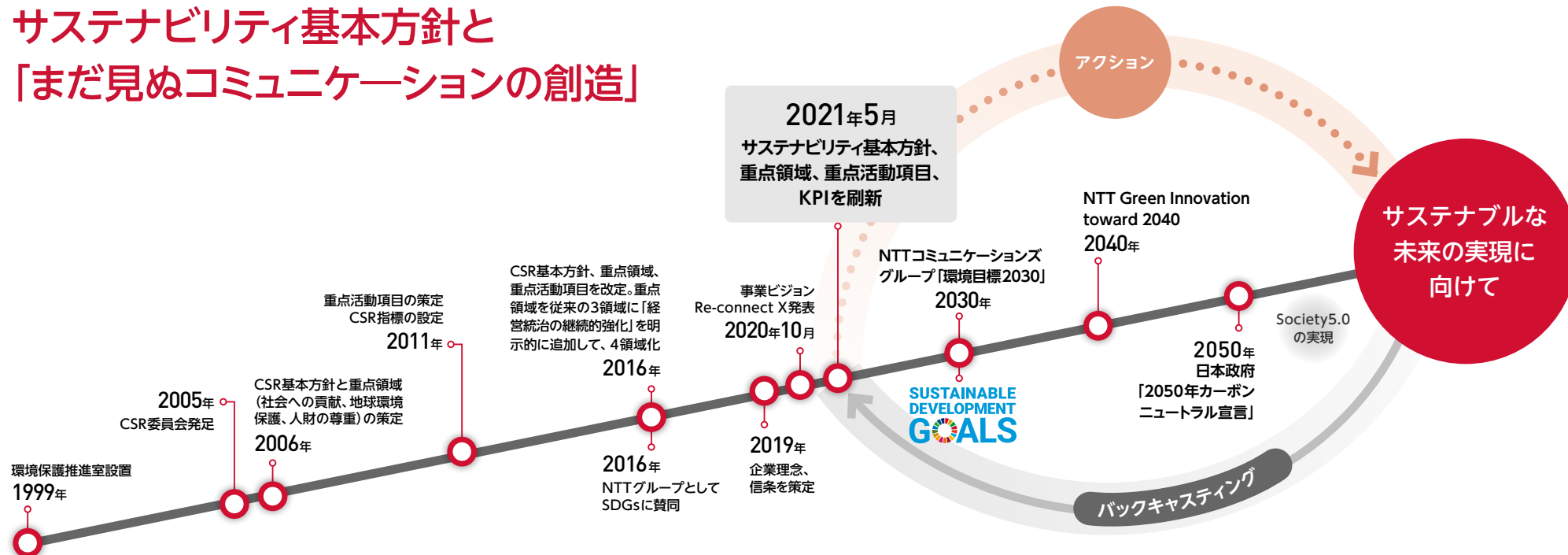


ガバナンス

高い倫理観と確固としたガバナンスのもと、常に信頼され、多彩な共創がサステナブルな社会を織りなし、紡ぐ未来

※ サステナビリティ基本方針(2021年5月策定)における重点領域

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」



私たちが取り組む「まだ見ぬコミュニケーションの創造」とは、「今日と未来の懸け橋として、あらゆる情報があらゆる垣根を越え、最適なかたちで社会をめぐり、より活用され、人と世界の可能性、そして、想像を超える未来を切り拓き、未知なる豊かさを社会や世界に届けてゆく、そのようなコミュニケーションの創造に向け、コミュニケーションの無限の可能性に挑み続けること」です。

これは、私たちNTTコミュニケーションズグループの使命であり、存在意義であり、「企業理念」の中核をなすものです。NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティおよびその基本方針は、このような取り組みと基本姿勢を「信条」の3項目とともにその骨格に据えたものとなっています。また、右記の「Corporate Message」、「Tagline」に込めた私たちの意志を反映したものとなっています。

Corporate Message

今日と未来の間に。

私たちは、今日と未来の間に常に媒介し、「今日」も世の中を支えながら、「未来」を創り続ける

Tagline

Go the Distance.

※ 距離を超える・最後までやり抜くの意

まだ見ぬコミュニケーションの創造を通じて、距離を超えた先にある価値を創り出す、という意味を込めています。加えて、「最後までやり抜く」の意味から、我々が大切にしてきた誠実さをもって、社会や顧客の期待を超えて、信条を貫き、企業理念を実現する決意を表現しています。

NTTグループの一員としてSDGsに賛同

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2016年度、NTTグループは国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同を表明しました。これを受け、私たちも2016年度よりNTTグループの一員としてSDGsに貢献する取り組みを推進しています。サステナビリティ研修CSR・SDGs研修などを行い、社内全体でSDGsの理解浸透を深め、SDGsの目標に紐づいたサステナビリティ重点活動項目などの事業活動を通じて、SDGsの目標達成に貢献していきます。



CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

サステナブルな未来を創造する
企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と
「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

- サステナビリティ基本方針のもと、ICT/DXの無限の可能性を追求し、2030年度カーボンニュートラルの実現[※]や、SDGs達成への貢献、そして、その先の持続可能で夢のある、Well-beingな未来の実現に取り組めます

サステナビリティマネジメント



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

サステナビリティ基本方針のもと、ICT/DXの無限の可能性を追求し、 2030年度カーボンニュートラルの実現[※]や、SDGs達成への貢献、 そして、その先の持続可能で夢のある、Well-beingな未来の実現に取り組めます

深刻化する気候変動問題をはじめSDGs/ESGなどに示された、地球規模での課題やリスクへの対応は、持続可能な社会を次の世代へ、そして未来につないでいく上で、今日、一層喫緊となっています。NTTコミュニケーションズグループでは、こうしたSDGs/ESGを巡る国内外の動向やそれらに伴う事業環境の変化、未来社会を支える先端技術の動向などを踏まえ、2021年5月、現在の「サステナビリティ基本方針」を策定しました。この基本方針は、全員参加型で作り上げた「企業理念」「信条」のもと、「サステナブルな未来の実現」を目指し、私たち一人ひとりが、「自ら始め」「共に高め」、事業ビジョンや日々の業務・事業活動などの推進を通じて、「社会に添えて」自分らしく活躍していくことを、その取り組みのベースに置いたものとなっており、こうした点を大切に推進していきたいと考えています。

また、この基本方針は、「社会」「環境」「人材」「ガバナンス」の4つの重点領域で構成し、各重点領域では、SDGsと関連付けつつ、目指す未来、そしてその実現のための12の重点活動項目を定めています。

私たちは、的確なガバナンスとマネジメントのもと、これらの重点活動項目のKPI達成や幅広い共創の展開などにより、NTTコミュニケーションズグループの事業活

動がもたらす、バリューチェーン全体を通じたICT/DX推進による「社会への正の効果」の一層の発揮と、「負のリスク・影響の最小化」を進め、「さまざまな社会課題の解決」「SDGs達成への貢献」、そして、その先の目指す未来社会の実現に取り組んでまいります。

その一環として、これらの取り組みを支える基盤の充実に向けて、2022年度には、新たに、サステナビリティに関わる特定のKPIに関する役員報酬連動制や調達分野でのインターナルカーボンプライシングの導入、人権・労働・環境・公正取引・倫理・事業継続などに関するサプライヤーデューデリジェンスを実施するとともに、全員参加型でのCSV推進への挑戦などの取り組みを進めています。また、より幅広いパートナー・お客さまとの共創の進化・深化を通じて、社会課題を解決し、未来を拓く「コンセプト共創と社会実装」推進の場である「OPEN HUB for Smart World」を2022年2月に開設しました。

私たちが先端技術を駆使して提供する、「SmartWorld」「Smart Data Platform for X」などのDXソリューション/プラットフォームや、新たな「移動固定融合サービス」5G・IoTなどのICTサービスは、気候変動、大規模災害や少子高齢化、感染症や情報・サイバー空間上の脅威への対応など現代社会が抱える複雑かつ多様な課題の解決

常務執行役員
安藤 友裕



や、社会のさまざまな分野におけるDX、GX、WX、SXの推進、そして、その先の未来社会を支える価値創造の切り札にもなり得るものです。SDGs/ESGを起点に、あらゆる分野・世界がよりよい未来に向かって結束していかなければならない今、こうした事業活動を通じてあらゆる分野・世界をつなぎ社会に貢献できる喜びは社員にとっても大きな価値を持つものとなっています。

新生NTTコミュニケーションズグループは、ドコモビジネスブランドのもと、これからも次世代、そして目指す未来社会を支えるサービス・基盤を開発・提供し続け、一層複雑化・多様化する社会課題を解決し、「あなたと世界を変え」、未来を拓くべく、ICT/DXの無限の可能性を追求し続けます。そしてサステナビリティ基本方針のもと、グループ一丸となって、社会の期待・要望に応えるべく、ICT企業ならではの「事業活動を通じたCSV/CSR」を実践し、SDGs/ESGの推進、イノベティブで創造的、強靱で、安心・安全、グリーンで自然と共生し、活力ある地域社会で構成される、誰もが尊重され、互いに高め合い、社会に添えて自分らしく活躍できる、持続可能で夢のあるWell-beingな未来の実現に、さまざまなステークホルダーの皆さまと共創・価値創発しつつ、積極的に取り組んでまいります。

※ 対象はGHGプロトコル：Scope1（自らの温室効果ガスの直接排出）、およびScope2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループの
バリューチェーンを通じたサステナブルな
未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係

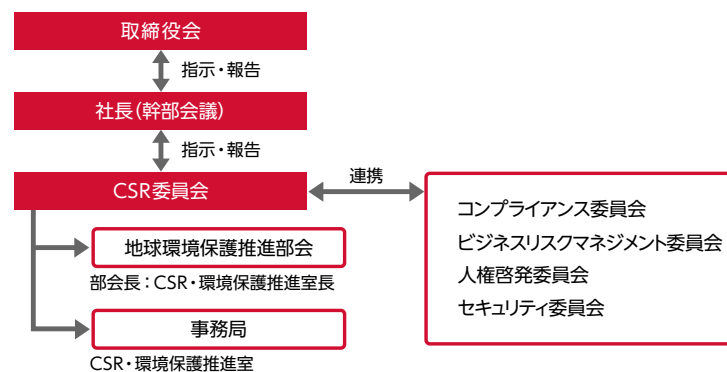
サステナビリティマネジメント

サステナビリティ推進体制とマネジメント

サステナビリティ推進体制

私たちは、ESGを巡る顕在／潜在的な社会課題に対して対応策を検討し、サステナビリティ活動を推進・マネジメントしていくための会議体として「CSR委員会」を設置しています。委員会はCSR担当役員である常務執行役員を責任者と定め、各組織長（執行役員等）、各グループ会社社長を構成メンバーとし、委員会内部には「地球環境保護推進部会」を設けています。そのほか、コンプライアンス委員会、BRM（ビジネスリスクマネジメント）委員会、人権啓発委員会、セキュリティ委員会といった他委員会とも必要な連携を図っていくこととしています。また、委員会に報告・協議さ

〔サステナビリティ推進体制図〕



れた事項については、社会・環境面での重要なリスク情報なども含め、取締役会へと共有されています。

取締役会では、これらの情報や監査役会からの提言などを総合し、サステナビリティ活動の適確な推進に向けて、必要なガバナンスを実施しています。

CSR委員会では、このような推進体制や取締役会によるガバナンスのもと、今後とも、サステナビリティ基本方針にもとづく各種の取り組みを的確に推進・マネジメントしていきます。

〔CSR委員会メンバー〕

委員長	CSR担当役員 （常務執行役員）
委員	各組織長（執行役員等）、 各NTT Comグループ社長
事務局	HR部 CSR・環境保護推進室

マネジメントの推進

私たちは、サステナビリティ活動を適確に推進するため、毎年度、重点活動項目の目標として指標（KPI）を策定し、その達成度合いを検証・評価・総括し、次年度の指標の策定に反映しています。これらのプロセスは、毎年度の指標の見直しはもとより、サステナビリティ基本方針および重点課題の再検討なども含めて、CSR委員会を通じて実施されます。4つの重点領域（社会・環境・人材・ガバナンス）にもとづく活動状況や関連するリスク・機会を主要推進事項の各主管組織とともにタイムリーに把握するとともに、KPIにもとづく取り組み評価や関連するリスク・機会、最新の社会動向や他社取り組み事例、外部評価を共有し、PDCAサイクルを回しながら、サステナビリティマネジメントを展開し、サステナブルな未来の実現に向けた各種取り組みを適確に推進していきます。

目録 マテリアリティ特定プロセスについては、
レポート内「重点活動項目とKPIの設定」をご覧ください

P.019

目録 サステナビリティに関するリスク対応については
レポート内「リスク管理」をご覧ください

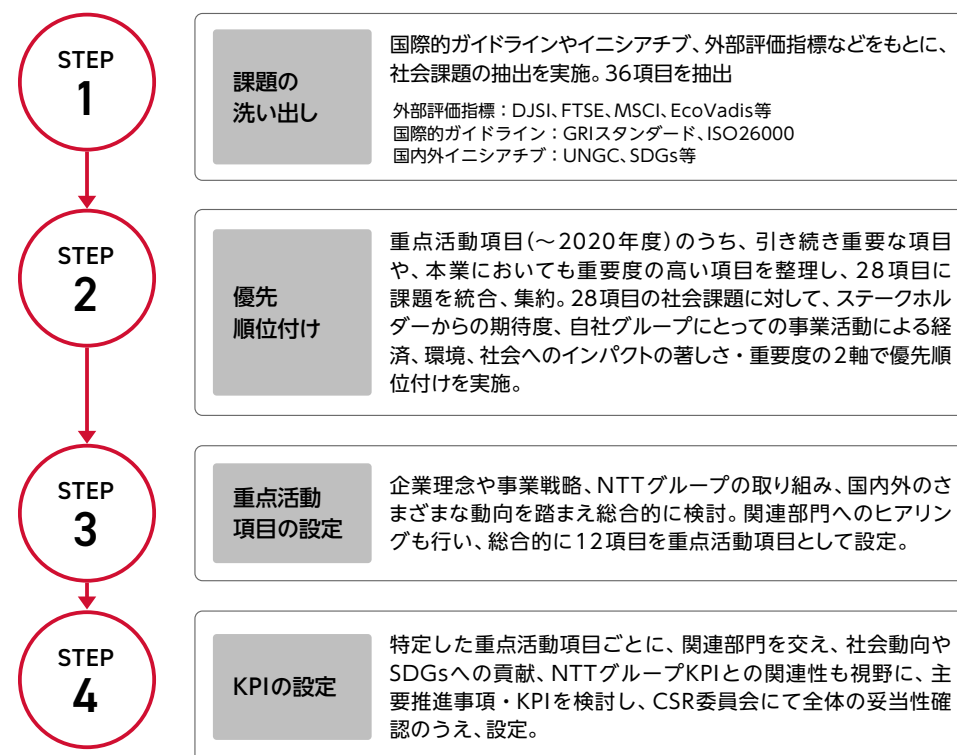
P.099

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係

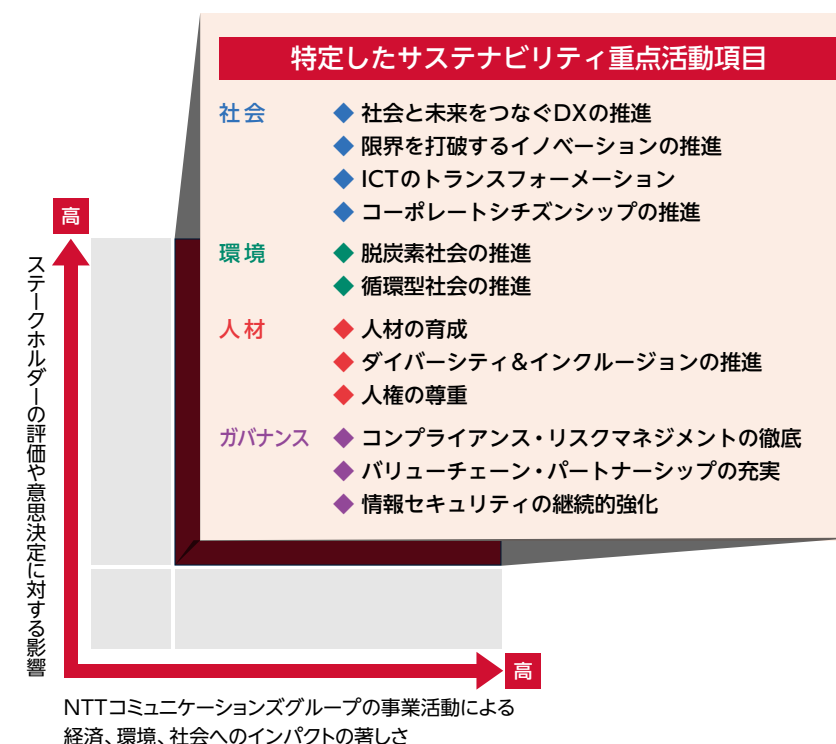
重点活動項目とKPIの設定

NTTコミュニケーションズグループは、サステナブルな未来を創造する企業グループを目指すべく、気候変動対応をはじめSDGs/ESGを巡る社会からの要請やさまざまな期待、事業戦略およびNTTグループの取り組み、国内外のさまざまな動向などを踏まえつつ、下図のようなマテリアリティ特定のプロセスを経て、サステナビリティ基本方針の策定とともに重点活動項目の見直しを実施しています。現在の重点活動項目

マテリアリティ特定プロセス



は、下図右側の「特定したサステナビリティ重点活動項目」の通り、社会、環境、人材、ガバナンスの重点4領域を構成する12の項目となっています。NTTコミュニケーションズグループは、今後ともこうして特定した重点活動項目に沿って、PDCAサイクルを回しながらサステナビリティ活動を推進していきます。



NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する
企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と
「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

主要推進事項／KPIと活動の成果

各重点活動項目に主要推進事項と指標 (KPI) を定め、主管組織のもとPDCAサイクルを回しています。主要推進事項およびKPIはCSR委員会 (年2回開催) で議論し、社会・ステークホルダー、そして国内外のESGを巡る動向などに応じて随時見直ししています。また、2022年度から、特定のKPIについて、その達成度合いを役員報酬に反映させる役員報酬連動制を導入しました。



社会

目指す未来

イノベティブで活力にみち、強靱で安心・安全、
そして価値創発で持続的に発展するよりよい未来

2021年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | 社会と未来をつなぐDXの推進

社会・産業DXの推進	定性 BBX戦略に基づくSmart World推進	定性 BBX関連対外発表35件、標準コンポーネントとして4件のサービス商用提供を開始	○	● 新ブランド「ドコモビジネス」立ち上げによる地域向け・中小企業向けDXも視野に入れながら引き続き推進 ● Smart Worldを支えるSDPFを中心にサービスの充実を推進
ワーク／ライフスタイルDXの推進	定量 提供サービス：8件	● 教育分野のコンテンツプラットフォーム (まなびポケット) の顧客基盤が300万IDを突破 【3月】 ● ヘルスケア分野における個人データの利活用を支えるSmart Data Platform for Healthcareのアプリケーション／標準コンポーネントをリリース 【1、3月】など		
グローバルビジネスDXの推進		定量 提供サービス・メニュー：11件 ● DX実現を加速させる「Smart Data Platform」のメニュー体系刷新など		



2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)
--------	----------

社会・産業DXの推進	定性 BBX戦略にもとづくSmart World推進
ワーク／ライフスタイルDXの推進	定量 提供サービス：8件
グローバルビジネスDXの推進	定性 新 グローバルDXソリューションの展開

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

021

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

2021年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | 限界を打破するイノベーションの推進

創造的イノベーションの創出	定性 創造的でイノベティブな SmartX の推進	xTech／新たな顧客体験による新規事業開発／実証を実施 ● 制御システムのセキュリティリスクを可視化する「 QsecT 」を開発。実証実験を実施し2022年4月に商用提供開始 ● イノベーションセンター発サービスプロダクト事業スケール拡大 (FinTech 関連や「 dropping 」など) ● プラント運営企業と連携した「AIプラント運転支援ソリューション」は2022年4月に商用提供開始	○	● 引き続き「新しい付加価値」を生み出し、「変革」を起こしている状態を目指して取り組む ● 宇宙事業 (SpaceTech) や、日本版 smart society など、中長期を見据えた次の事業テーマについても検討中
	定性 社内外と連携した創造的なイノベーションの推進	● [ExTorch Open Innovation Program] の5テーマに対して社外から54件の応募。結果7件を採択 ● スタートアップ知財戦略支援で、特許庁主催「第3回 IP BASE AWARD」奨励賞受賞	○	

重点活動項目 | ICTのトランスフォーメーション

自然災害に強く、高信頼で、安心・安全なネットワーク基盤の充実	定性 現行ルートの脆弱度評価を行い、全国DSMケーブルの更改方針へつなげる取り組み 定性 災害発生時に重要回線の冗長確保の速やかな実施 定性 災害発生時でもサービス影響を与えにくいNW構築 定性 社内監視制御NWのセキュリティ強化	● 既存ケーブル脆弱性評価システムのPoC検証完了 ● 重要回線の追加パス用物品納品、災害用予備機配備見直し実施 ● 九州～沖縄三重化の追加パス構築完了。北海道～秋田の海底ケーブルシステム構築協定書締結 ● 2021年4月NDR運用開始	○	— (ネットワーク基盤はドコモに移管し継続)
--------------------------------	--	---	---	---------------------------

2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)
--------	----------

創造的イノベーションの創出	定性 創造的でイノベティブな SmartX の推進	
	定性 社内外と連携した創造的なイノベーションの推進	

自然災害に強く、高信頼で、安心・安全なネットワークサービスの充実	定量 新 安定サービス提供率：99.99% ● 音声サービス ● 法人向けネットワークサービス ● クラウドサービス	
----------------------------------	---	--

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



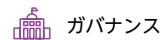
社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

022

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

2021年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
先進的で強固な情報・サイバーセキュリティの提供	定量 セキュリティサービスの開発／メニューの追加：2件	● セキュリティサービスの開発／メニューの追加：5件実施	○	● サイバーセキュリティサービスについては中小企業向けメニューも視野に入れて開発予定 ● X Managed Platformサービス も今後重点取り組み予定
先進的で柔軟なネットワークサービスの提供	定量 Edge Computing、ドローン、Local 5Gなどへの先進的な取り組みを推進：2件	● 先進的なサービス3件提供開始 エッジコンピューティングサービス [SDPF Edge] の提供開始など	○	5G／IoTなどを中心に取り組む

重点活動項目 | コーポレートシチズンシップの推進

持続可能な未来に資する社会貢献活動の推進	定量 地域社会貢献活動への参加回数 (対前年比増)	10件 (昨年度：2件) ● OriHimeを活用したICT×スポーツ×地域の共創プロジェクト など ● フィリピン教育局に296台の端末を寄贈し9つの学校でオンライン授業開始	○	多くの社員が参加可能な社会貢献活動の幅広い展開を推進 ● プロボノ活動支援実施 ● グリーンプログラム for Employeeによるチャレンジ ● 生物多様性保全に向けた社会貢献活動
----------------------	-------------------------------------	--	---	---

2022年度	
主要推進事項	指標 (KPI)
先進的で強固な情報・サイバーセキュリティの提供	定量 先進的で強固なセキュリティサービスの開発／メニューの追加：3件
新 顧客の安心・安全なトランスフォーメーションを支援するマネージドサービスの提供	定量 新 安心・安全なICT社会の持続的発展を支援するマネージドサービスの開発／新メニューの提供：2件
先進的で柔軟なネットワークサービスの提供	定量 提供サービス：2件

持続可能な未来に資する社会貢献活動の推進	定量 地域社会貢献活動への参加回数 (対前年比増)
----------------------	-------------------------------------

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



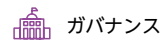
社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

023

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ



環境

目指す未来

カーボンニュートラルで、資源が循環し、生物多様性が保全されて自然と共生する、グリーンな未来

私たちは、以下の関連主要推進事項により、「2030年度カーボンニュートラル(自らが排出するCO₂の実質ゼロ化)」を目指します。

2021年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | 脱炭素社会の推進

グリーン電力の推進	定量 自社における再生可能エネルギー利用率： 2030年度50%以上	35% (Scope2電力)	○	● 再生可能エネルギーの計画的な導入を進めるとともに、インターナルカーボンプライシング導入をはじめとしたCO ₂ 排出削減に寄与する施策を確実に実施 ● 社用車による排出削減に向け、EV化の推進に加え、所有する車両の台数や利用形態の見直しを積極的に推進 ● NTTドコモグループとしての事業再編成を反映した新たな脱炭素計画を策定
電力削減施策の推進	定量 CO ₂ 排出量の削減：2030年度に2018年度比▲50%	▲43% (2018年度比)	○	
EV(電気自動車)の導入	定量 EV(電気自動車)導入率：2024年度50%、2030年度100%	23%	○	
CO ₂ 削減に貢献するサービス等の提供	定量 通信事業の電力効率：2030年度に2013年度比10倍以上	4.7倍	○	
エネルギー効率向上の推進	定量 社会のCO ₂ 排出量の削減貢献量： 2030年度に自社排出量の10倍以上	19.5倍	○	

P.044 2030年度カーボンニュートラルの実現に向けた考え方については、レポート内「環境目標2030」パートをご覧ください

重点活動項目 | 循環型社会の推進

3R(削減、再使用、再資源化)の徹底	定量 廃棄物の最終処分率： 2030年度1.5%以下	1.6%	△	● リサイクル率向上に向けた処分対象・処分方法の見直し ● 紙(事務用紙)の使用量2020年度比32%削減を目指して取り組む
プラスチックの循環利用の推進				



2022年度	
主要推進事項	指標 (KPI)

グリーン電力の推進	定量 自社における再生可能エネルギー利用率： 2030年度50%以上
電力削減施策の推進	定量 CO ₂ 排出量の削減：2030年度に2018年度比▲50%
EV(電気自動車)の導入	定量 EV(電気自動車)導入率：2024年度50%、2030年度100%
CO ₂ 削減に貢献するサービス等の提供	定量 通信事業の電力効率：2030年度に2013年度比10倍以上
エネルギー効率向上の推進	定量 社会のCO ₂ 排出量の削減貢献量： 2030年度に自社排出量の10倍以上

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループの
バリューチェーンを通じたサステナブルな
未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス



人材

目指す未来

多様性に富み、誰もが尊重され共に高め合い、
社会に応じて自分らしく活躍できる未来

2021年度				
主要推進事項	指標(KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | 人材の育成

キャリアマネジメントプログラムの浸透・活用の推進 プロフェッショナル人材育成プログラム、スキルアップ研修の充実	定量 一人当たり研修費用： 22.8万円／年	202,429円	△	激しい環境変化の中で、求められる技術や専門スキルの多様化・深化・短寿命化する中、社員個々の自律的な学習行動の促進を強化する
--	-------------------------------------	----------	---	---

重点活動項目 | ダイバーシティ&インクルージョンの推進

多様な人材の雇用・育成・ 登用と機会均等の推進	定量 女性管理者比率： 2025年 10%	8.3%	○	女性の新任管理者登用率のKPIを追加し、女性管理者比率を上げていく
	定量 男性育休取得率： 2025年 25%	男性育休取得率：25% (参考) 男性育児事由休暇取得率*：67.8% ※ 分母：年度中にパートナーが出産した男性社員、分子：年度中に育児休職など(企業独自の育児を目的とした休暇制度を含む)を取得した小学校就学前の子どもがいる男性社員	○	男性育休取得は、取得しやすい風土醸成／管理者への研修等を行い、引き続き100%を目指す
	定量 障がい者雇用率：2.3%	2.38% ※ 2022年6月1日時点	○	障がいを持つ社員にも働きやすい環境作りに努め、さらなる定着支援や雇用拡大を目指す



2022年度

主要推進事項	指標(KPI)
--------	---------

社員個々の自律的な学習行動や、社員同士のオープンな学び合いの促進に資する施策を強化	定量 一人当たり研修費用： 22.8万円／年
---	-------------------------------------

多様な人材の雇用・育成・ 登用と機会均等の推進	定量 強化 女性管理者比率： 2025年 15%
	定量 新 女性の新任管理者登用率：30%
	定量 強化 男性育児事由休暇取得率： 100%
	定量 障がい者雇用率：2.3%

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

025

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

2021年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
ワークライフ バランスの 推進	定量 社員満足度 (前年度以上)	NTTグループ統一のエンゲージメントサーベイ導入	—	NTTグループ共通PFでエンゲージメントスコアを中心に経年変化を把握
	定量 帳票類の電子化 定量 電子化カバー率：85%	電子化カバー率：87.5%	○	共通業務における電子化カバー率／電子化実施率共にDX企業としてさらなる推進を目指し取り組み継続 カバー率：100%を目指し取り組む
	定量 電子化実施率：70%	電子化実施率：81.3%		実施率：お客さまの利用状況をみながら勧奨を進める
	定量 在宅勤務率：70%	80%超	○	より一層のハイブリッドワークの推進
労働安全衛生・ 健康管理の徹底	定量 特定保健指導対象者率： 2021年16.5%、2023年14.5%	22.0%	△	今後も同様の傾向が続くが、健康チャレンジ施策を通じ運動習慣の改善を図り、対象者率については対前年マイナスを目指す
	定量 特定保健指導完了率： 2021年43%、2023年55%	67.0%	○	

重点活動項目 | 人権の尊重

プロアクティブ な人権啓発活動 の推進	定量 人権研修受講率 (前年度以上)	受講者：18,155人 受講率：96.3% (昨年度：87%)	○	人権研修受講率100%を目指す
	定量 人権デューデリジェンスの実施：1回以上／年	0件	△	
	定量 人権に関する違反件数：0件	2件 (懲戒案件)	×	

2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)
ワークライフ バランスの 推進	エンゲージメントスコア (エンゲージメントカテゴリのポジティブ率) 対前年度比増
	定量 電子印影利用率：80% 電子契約率：50%
	定量 リモートワーク実施率：70%
労働安全衛生・ 健康管理の徹底	定量 特定保健指導対象者率 2022年度目標：18.8% 2023年度目標：14.5%
	定量 特定保健指導完了率 2022年度目標：70.0% 2023年度目標：75.0%

プロアクティブ な人権啓発活動 の推進	強化 人権研修受講率：100%
	定量 人権デューデリジェンスの実施：1回以上／年
	定量 人権に関する違反件数：0件

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成



ガバナンス

目指す未来

高い倫理観と確固としたガバナンスのもと、
常に信頼され、多彩な共創がサステナブルな社会を織りなし、紡ぐ未来

2021年度				
主要推進事項	指標(KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | コンプライアンス・リスクマネジメントの徹底

コンプライアンスへの 取組の継続的充実	定性 コンプライアンス研修を実施、 リスク管理意識の醸成	● 研修受講率：98.8%（昨年度：93.1%） ● 企業倫理アンケート実施率：94.1%（昨年度：83.8%） ● その他、ハラスメント防止を目的としたマネジメント振り返り研修等を実施	○	Integrityに満ちたコンプライアンス基盤の確立また新ドコモグループの体制に応じ、以下の内容に取り組む ● 社員間の調和・相互理解の促進 ● 新体制・プロセスへの適応 ● 飲酒等接触機会の増加に伴い改めて意識啓発を実施
リスク管理体制の 継続的充実	定性 全社リスクマネジメントの推進	● ビジネスリスクマネジメント推進委員会(2回)、小委員会(12回)開催 ● 四半期幹部会議報告、社内への取り組み紹介等	○	2022年度の重要リスクとして「新型コロナウイルス(パンデミック)」「情報セキュリティ」「レジリエンス」を指定して重点的に取り組む

2022年度

主要推進事項	指標(KPI)
--------	---------

新 高い倫理観の共有と コンプライアンスの徹底	定量 新 重大なコンプライアンス違反 発生件数：0件
新 信頼され続ける企業としての コンプライアンスへの 取組の継続的充実	定量 新 全社コンプライアンス研修 受講率：100%
新 企業倫理の維持向上を 目指す企業風土	定量 新 職場がオープンな雰囲気である とする社員の回答率：97%
リスク管理体制の 継続的充実	定性 全社リスクマネジメントの推進

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

027

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

2021年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて

重点活動項目 | バリューチェーン・パートナーシップの充実

CSR・グリーン調達への徹底に向けたサプライヤーとの協働	定量 CSRアンケート回収率：100%	SAQ(セルフリスクアセスメント調査)実施へ変更。サプライヤーと直接対話を実施するスキームを策定しパートナーシップを強化	△	DCC統合に向けた調達スキームの整理・統合において、「調達基本方針」および「サプライチェーンサステナビリティ推進ガイドライン」を迅速かつ適確に浸透・実践していく
	定量 高リスク取引先の調達状況確認実施率：100%	● RFPの環境条件追加に関する取引先説明会(130社)を実施 ● CO ₂ 削減に向けた意見交換会を個別に20社実施「サプライチェーンBCPガイドライン」の新規制定し、取引先に対して協力を依頼(7月)	○	
	定量 リスクが認められた取引先に対する是正対応の実施率：100%	● 購入仕様書への「BCP要件」順次適用開始(7月～) ● 半導体不足で影響のあるメーカーと定期的に直接生産継続交渉	○	
ステークホルダー・エンゲージメントの充実	定性 ステークホルダーとの対話や要望への対応	● CSR調達／人権デューデリジェンスに関する有識者ダイアログの実施(3月) ● 環境問題を中心とした、顧客との対話の実施	○	お客さまとの社会課題解決に向けた対話の強化

重点活動項目 | 情報セキュリティの継続的強化

セキュリティ・マネジメントの継続的強化	定量 重大なインシデント発生件数：0件 定性 システム監査／情報セキュリティ監査やサイバーセキュリティ対策の実施、マネジメント体制の充実	● 重大なインシデント発生件数：0件 ● ゼロトラストネットワークの確立に向けEDR導入の6月末までの全社導入完了に加えて、NDR・UEBAなどの多層防御を開始。 ● IT/OT資産管理管理システムとネットワーク資源管理システムの運用を開始。 ● セキュリティ委員会開催(8回)し、セキュリティガバナンスの強化実施 ● セキュリティマネジメント調査(NTT Com内24組織、グループ13組織)、IT/OTシステム調査(デジ改3システム)、サービス単位でのアジャイル監査(1サービス)を実施。	○	2022年度はIT/OT資産管理管理システムとネットワーク資源管理システムの連携を図る
---------------------	---	--	---	---

2022年度

主要推進事項	指標 (KPI)
--------	----------

CSR・グリーン調達への徹底に向けたサプライヤーとの協働	定量 SAQ回収率：100%
	定量 高リスク取引先の調達状況確認実施率：100%
	定量 リスクが認められた取引先に対する是正対応の実施率：100%
	定量 新 重要なサプライヤーとの直接対話実施率：100%
ステークホルダー・エンゲージメントの充実	定性 ステークホルダーとの対話や要望への対応

セキュリティ・マネジメントの継続的強化	定量 重大なインシデント発生件数：0件 定性 システム監査／情報セキュリティ監査やサイバーセキュリティ対策の実施、マネジメント体制の充実
---------------------	---

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

2021年度				
主要推進事項	指標 (KPI)	振り返り	評価	今後に向けて
セキュリティ人材の育成	定量 IT／OTシームレスなセキュリティ人材育成：30名／年	高度セキュリティ研修への参加者：35名 (2021年度報告時点)	○	セキュリティ人材の育成については今後も継続する。主要推進事項としてのKPI設定は行わない
	定量 ODYSSEYセキュリティカテゴリlevel3以上 (2024年度：総計200名以上)	2021年度上期時点Level3：110名	○	
個人情報の適正管理	定量 重大な個人情報漏洩件数：0件	0件 個人情報保護法改正を踏まえ社内規類を改定	○	機密情報の適切な廃棄運用を徹底するための実効性ある仕組みづくりは情報セキュリティ部・PS事業推進部とともに具体的に引き続き検討中

2022年度	
主要推進事項	指標 (KPI)
—	—
個人情報の適正管理	定量 重大な個人情報漏洩件数：0件

自己評価による達成レベル ○：達成 △：一部達成 ×：未達成

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2022

CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



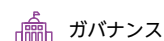
社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み

NTTコミュニケーションズグループでは、事業活動が、バリューチェーン全体で社会や環境にどのような影響をもたらすかを把握し、新たに策定したサステナビリティ基本方針に沿って、SDGsと照らし合わせながら、改めて対応すべき主要事項を明確にしています。SDGsの達成、そして、サステナブルな未来の実現に向けて、バリュー

チェーンパートナーシップの充実を図りつつ、事業活動を通じて、社会への正の影響を強化し、負のリスク・影響を最小化すべく、これらの主要事項の取り組みを進めていきます。

4つの重点領域 ◆ 社会 ◆ 人材 ◆ 環境 ◆ ガバナンス



CONTENTS

トップコミットメント

事業戦略

私たちが目指す社会

特集

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

サステナブルな未来を創造する
企業グループを目指して

サステナビリティ基本方針と
「まだ見ぬコミュニケーションの創造」

サステナビリティマネジメント

- サステナビリティ推進体制とマネジメント
- 重点活動項目とKPIの設定
- 主要推進事項／KPIと活動の成果
- NTTコミュニケーションズグループのバリューチェーンを通じたサステナブルな未来実現に向けた取り組み
- NTTグループとの関係／外部との関係



社会



環境



人材



ガバナンス

第三者保証

企業情報

NTTグループとの関係

グループ一体でのサステナビリティの推進

NTTコミュニケーションズでは、NTTグループの一員として、2021年11月に「NTTグループCSR憲章」より改訂された「NTTグループサステナビリティ憲章」にもとづき、グループ一体での社会的課題の解決に取り組んでいます。NTTグループではこれに伴い、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置し、サステナビリティに関する基本戦略、活動の実施状況、情報開示について議論するなど、取り組みを推進しています。弊社グループも事業会社として参加し、委員会での決議事項については活動内容に反映していきます。

また、NTTグループでは、サステナビリティの取り組みに関する理解および促進を目的として、2013年度より「NTTグループサステナビリティカンファレンス」を開催しています。弊社グループは同カンファレンスで2016年度から連続して表彰されています。2021年度も積極的にサステナビリティの観点で貢献する施策やサービス事例を共有・報告しています。

【サステナビリティカンファレンスの様子】



「NTTグループサステナビリティ憲章」の詳細はこちらをご覧ください。
<https://group.ntt.jp/newsrelease/2021/11/10/211110d.html>

外部との関係

外部団体への参加

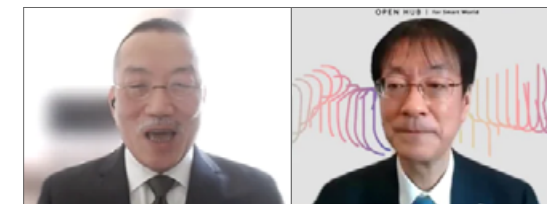
NTTコミュニケーションズでは外部団体・組織への参加を積極的に行い、情報共有を行うことで社内の枠組みを超え、社会課題の解決につながる取り組みの共有を図っています。

外部団体への参加状況(主な団体のみ掲載)

- ・気候変動イニシアティブ(JCI)
- ・ジャパン・サーキュラー・エコノミー・ネットワーク(J-CEP)
- ・グリーン購入ネットワーク(GPN)
- ・一般社団法人沖縄オープンラボラトリ(理事)
- ・一般社団法人高度ITアーキテクト育成協議会(理事)
- ・一般社団法人インターネットコンテンツセーフティ協会(ICSA)(理事)
- ・一般社団法人セキュリティ対策推進協議会(SPREAD)

社外から経営陣へのアドバイザリー

多様なステークホルダーの視点を適切に加味した経営を実現することは重要な責務であると、私たちは考えています。この考えに即し、各役員は、事業を通じた日常的な対話に加え、内外の会合への参加や個別面談などを積極的に行っています。特に事業戦略にサステナビリティの視点を加味するうえでは、内外の専門家・有識者との意見交換が重要であると考え、「経営陣と外部有識者のダイアログ」を継続的に実施しています。2021年度は上智大学名誉教授・上妻義直氏をお招きし、バリューチェーン上のリスク管理をテーマにCSR委員長を含めた社員3名とのダイアログを実施しました。なお、経営陣からサステナビリティ戦略の推進業務を委任されている各部門担当者が継続的に実施している有識者レベルのダイアログについても、その内容を必要に応じ経営陣へとCSR委員会などの場を通じて適宜共有しています。



「経営陣と外部有識者のダイアログ」の詳細はこちらをご覧ください。
https://www.ntt.com/about-us/csr/dialog/dialog_2021.html